（様式４）
令和７年 11 月 27 日

第２回　大阪市立南田辺小学校　学校協議会 実施報告書

学校名　大阪市立南田辺小学校
校長名　　笹部　靖憲

<table>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">令和７年 11 月 26 日（水）　　１９時００分~２０時３０分(１時間３０分)</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="3">大阪市立南田辺小学校　会議室</td></tr>
<tr><td>出席者</td><td colspan="3">坂本　敏和(委員長)　伊藤　博(委員)　天野　博視（委員）三宅　智惠美(委員)
杉田　寿男（委員）　那須　香織（委員）吉富　瑠理子（委員）川上　雅子（委員）
木村　英輔（委員）
笹部　靖憲(委員)　濱澤　和之(委員)　　区役所　北川　賢志</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="3">(1)　運営に関する計画中間評価について
(2)　学校行事などの取り組みについて
(3)　その他</td></tr>
<tr><td rowspan="2">協議
要旨</td><td colspan="2">協議の結果</td><td>意見の概要</td></tr>
<tr><td>(1)

(2)</td><td>○学校行事などの取り組みについて
○運営に関する中間評価について</td><td>・ICT の推進と子どもたちの健全な成長について
委員：教育のデジタル化で児童の学習の可能性は広がったが、弊害はないか。アナログから多様化、ビジュアル化になり文字を読むこと、書く力が弱くなってきていないか。ゆっくり丁寧に書く機会が減ったことで、字体が整いにくい子が増えているのではないか。
校長：基本、字を書くのは変わっていない。タブレットを使うようになって、協働作業ができるようになり、友だちがどう考えているのかなど見て回らずとも、手元で操作して共有し、他者参照することができる。
委員：ICT の発展で世の中のニーズがそうなっていることは理解できる。しかし、機器に依存しすぎると、人間性（優しさや喜怒哀楽の感情面など）に影響がでないか心配。世の中は、子どもの心身の健康面からスマホ等使用時間を制限する動きもあるなか、教育現場は逆行していないか。コロナの影響が後押しし、AI も教育の世界に入る。今、脱デジタルの部分も必要ではないか。
・家庭教育の必要性、不登校に対する考えの多様性
委員：学校だけでなく家庭だ。省力化は AI デジタルの時代で実現するが、そのときに一番大事なのは、家庭で育む人間性。学校に完璧な対応を求めすぎている。親の考えの多様化で不登校が増え、通信制の学校など、多様なニーズ答える学校が増える。一方、ICT の推進で今後、学校教育は省力化されてくると思う。アンケートの「いじめ」問題など否定的な考えの児童をどう変えていくかに焦点を当てること、いじめは減っているのか。教育の質を高められるようにするため、市は採用から待遇、育成をマネジメントすることが大事。
校長：いじめは、発生はわからないが認知件数が増えている。教科学習に加え、プログラミングや ICT などたくさん教えなければならないことがあるが、何よりもこどもたちの笑顔のためにがんばりたい。</td></tr>
</table>

	(3)	○その他	
協議資料	○令和７年度　運営に関する計画中間評価		
備考	傍聴者［　０　］名		